

二宮町立二宮小学校

研究テーマ：9年間を見通した共通性と一貫性のある指導・支援を通した、
「学びに向かう力」の醸成と資質・能力を育む指導のあり方（4年次）

1 実践の目的

二宮町では、令和5年4月より町内すべての学校が1つの施設分離型小中一貫教育校『にのみや学園』となった。学園の開校に向けて、にのみや学園の教職員全員の願いや想いを紡ぎ、教育目標を次の通り定めた。

『認め合い 高め合う 二宮の子』

この教育目標を実現するために、子ども同士の学び合いや話し合いを中心とした授業づくりに学園全体で共通性と一貫性をもって取り組んでいる。学級づくりの基盤や学習の進め方を揃えることで、子どもたちが安心して学んだり、進級したりできるようにするとともに、9年間を見通して子どもたちに必要な資質・能力の育成を図ることができると考える。

子どもたちに育みたい資質・能力を学園内で共通理解を図り、授業づくりを進めることを大事にしている。

二宮町で育みたい汎用的な資質・能力		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
①主体的に継続して勉強する	①必要な情報を集めて分析する	①多様な価値感の仲間を増やす
②多様な学びで知識を吸収する	②状況に応じて適切に判断する	②互いの違いを認めて高め合う
③知識を応用して上手に使う	③論理的で柔軟に思考する	③諦めずに自分の夢をかなえる
	④自分の考えを正しく伝える	

授業づくりでは、「何を学ぶか」だけでなく、「どのように学ぶか」を意識し、知識・技能だけでなく、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力・人間性を一体的に育てて

いくための授業改善を図ることを意識している。

特に、4年次となる令和6年度においては、学びに向かう力を高めていくために、以下の内容も研究の視点に加えて取り組んだ。

- ・習得の授業における子どもの主体性
- ・日常生活や学校生活との関連付け
- ・学習活動や単元全体の目的意識の共有

2 実践の内容

（1）研究体制

今年度も引き続き、教育力向上アドバイザー吉新一之氏（元川崎市立川崎小学校長）を講師に迎え、指導・助言を仰いでいる。低・中・高学年と特別支援学級ブロックの4つに分かれ、各ブロックで1つの研究授業を行い、その後研究全体会を行った。その他の学年・学級も、公開授業を行った。

（2）研究授業、研究協議の様子

特別支援学級の研究授業は、各担任が8つの教室で授業を行った。それぞれの子どもの特性や教科内容、学び方に合わせたグループを編成し、少人数での全体学習や、個別の学習など、学びへの様々なアプローチを見ることができた。全体研究会では、個に合わせたきめ細やかな指導や具体物を操作することなどの体験、手順を示すことでの見通しをもった指導など、どの学級・学年でも活用できることを学べたという意見が多く聞かれた。



9月には、6年生の国語「やまなし」で授業を行った。今まで読み深めてきた作品や作者の生き方への理解をもとに、話し合いをしていった。より深い思考に導くために、教師の発問を入れていったが、話し合いをもっと子どもたちだけで行うことが、主体的・対話的で深い学びにつながるという、講師からのご指摘があった。また、子どもたちだけで話し合えるレベルの課題で、子どもたちだけで自然に深めていけるような授業を設定する必要があると、課題を感じた。



11月には、3年生の理科「電気の通り道」で授業を行った。課題に対する子どもたちの関心から、雰囲気もよく学習が進んだ。発言に対して質問をしたり、それに答えたりして活発な話し合いが見られた。全体研究会では、日常生活や自分の経験をもとに予想をすることが大事であり、そのためにより体験や経験を充実させていくことが、理科や総合などの学習で大切になってくるという意見も出された。



1月には、1年生の生活科「もうすぐ2年生」で授業を行った。1年前の自分たちの思いや体験を思い出し、それを元に話し合いが進んだ。個人で考える時間、グループで意見交換する時間、全体で共有する時間と、様々なパターンを取り入れたことで、メリハリのある授業となった。出された意見を教師が意図的にグループ化して板書することで、より子どもたちの思考が円滑に流れた。友達の意見を「おお～」と言いながら聞くななど、あたたかい雰囲気の中で話し合いを行っていた。



また公開授業は、5年生が国語、4年生が国語、2年生が生活科の教科で、学年で指導案を検討し、授業を作り上げていった。

3 実践の成果

話し合いが自然にできるようになり、聞く姿勢が身につく、それにより挙手をして自分の考えを述べる子どもたちが増えたと感じる。相互指名も浸透したことで、間に教師を挟むことなく、どんどん意見交換を行う場面も見られるようになった。

そして、話し合いを目的化しない、授業のねらいとずれることのないように、単元の展開や話し合いの位置づけ・課題設定に、より慎重に単元計画を立てるようになった。

4 今後の展開

あたたかな学級づくりといった基盤となる学級経営や、相互指名・聞く姿勢など、児童主体の授業スタイルの良さを今後も継続していく。全ての学習で使えるものであるからこそ、教科側の視点からアプローチをしていくことも考えていきたい。